

# 臼杵市ヤングケアラー実態調査

## — 概要版 —

令和7年3月  
臼杵市

# 目次

---

1. 調査概要	1
2. ヤングケアラーと思われる子どもの人数(推定)	2
3. 家庭・家族のことについて	3
3-1. 世話をしている家族の有無	3
3-2. 世話を必要とする家族と世話の内容	4
3-3. 世話をしている頻度と世話で感じるきつさ	5
3-4. 世話をしているためにやりたいけれどできないこと	6
3-5. 世話について相談した経験の有無と相談相手	7
3-6. 世話について相談しない理由	8
3-7. 学校や周りの大人にしてもらいたいこと	9
4. ヤングケアラーにあてはまるか	10
5. ヤングケアラーの認知度と認知経路	11
6. 自由回答	12
<ヤングケアラーに関する相談窓口について>	14

# 1. 調査概要

## 調査目的

本調査は、臼杵市におけるヤングケアラーと思われる子どもを正確に把握するため、ケアの対象者及びその内容、頻度などの現況、相談先や支援ニーズ等を把握し、ヤングケアラーとしての自覚などヤングケアラーの実態を把握するとともに、市の施策の基礎資料とすること。また、記名者に対する早期支援を講ずることを目的とする。

## 調査対象者

- (1)小学生調査:臼杵市内の学校に在籍している小学5・6年生(※特別支援学校在籍児童は除く)
- (2)中学生調査:臼杵市内の学校に在籍している中学生(※特別支援学校在籍児童は除く)
- (3)高校生年代調査:臼杵市内に住民票のある高校生年代のすべての者(※高校に在籍していない児童含む)

## 調査方法

- (1)小学生及び中学生:学校でタブレット等によりWEB上での回答
- (2)高校生年代:①タブレット等によりWEB上での回答。②アンケート用紙に記入しての回答。  
※高校生年代は、各家庭へアンケート用紙を郵送し、QRコードを読み取り、WEB上での回答。  
または、アンケート用紙へ直接記入し、同封の返信用封筒にアンケート用紙を入れ、返送して回答完了する仕様。

## 調査期間

令和7年10月～12月

## 調査項目

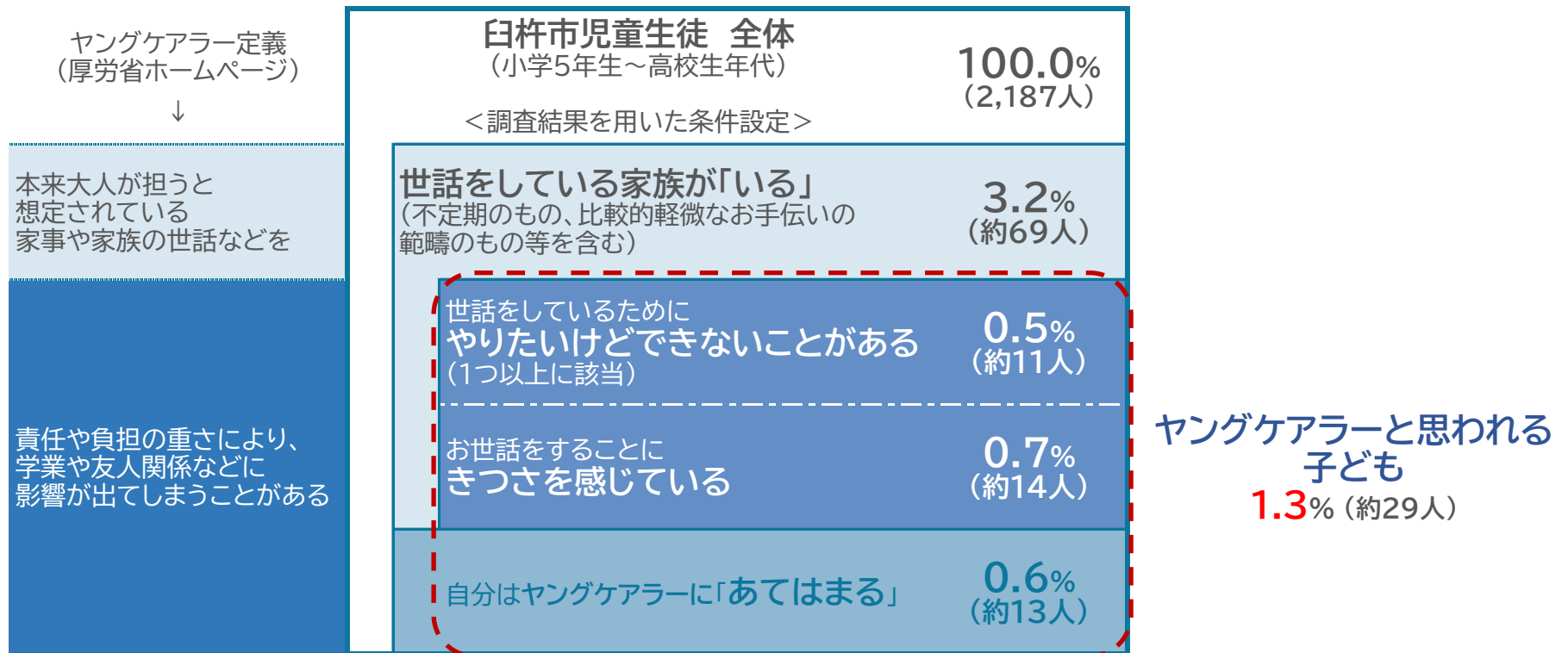
本市が令和5年度に実施したヤングケアラー実態調査の調査項目を基本としつつ、追加・変更等を行い、調査票(23問)を作成

## 回収状況

	調査対象数	有効回答数	回収数		有効回答率
			WEB回収数	郵送回答数	
小学生(5～6年)調査	497	440	440	—	88.5%
中学生調査	826	661	661	—	80.0%
高校生年代調査	864	264	135	129	30.6%
合計	2,187	1,365	1,236	129	62.4%

## 2. ヤングケアラーと思われる子どもの人数(推定)

- 今回の調査結果を活用して臼杵市独自にヤングケアラーと思われる子どもの人数を推定した。
- 下記の条件設定に基づく、「ヤングケアラーと思われる子ども」は小学5年生～高校生年代の児童生徒全体の**1.3%(約29人)**と推定される。



※1.上記の条件設定はあくまで調査結果に基づく推定による設定であり、支援の対象を限定するものではありません。

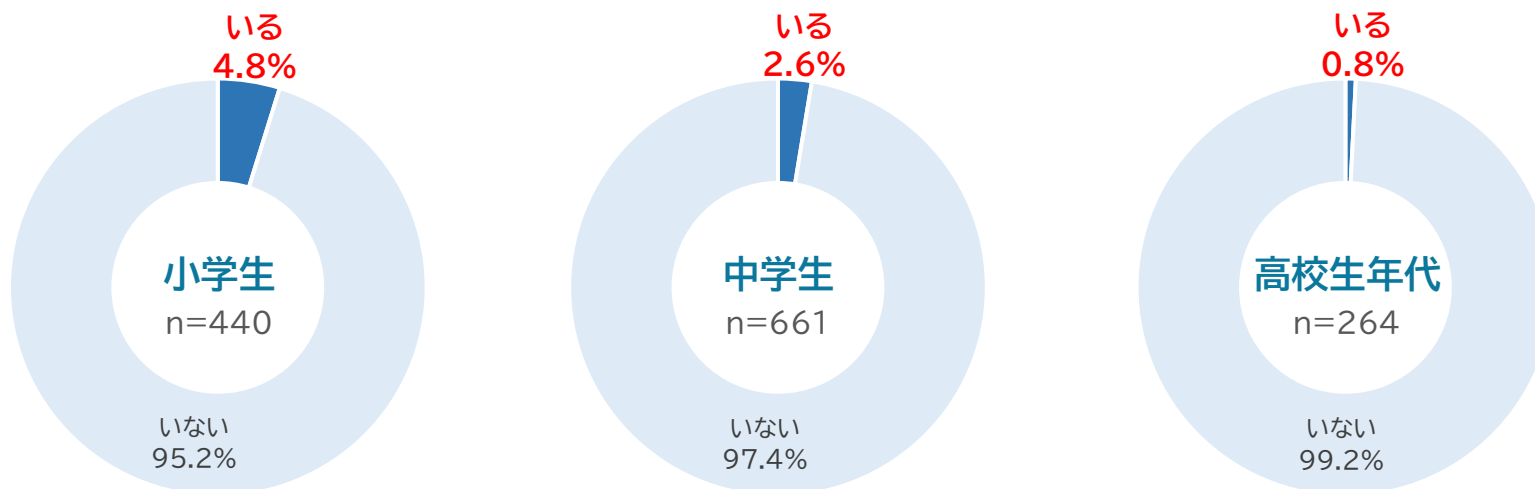
※2.推定数算出においては端数処理等を行っているため、児童生徒全体の人数に割合(%)を乗じた数値とは一致しません。

※3.今回の調査の対象は小学5年生～高校生年代であったため、上記の推定数も小学5年生～高校年代の児童生徒に関する推定数となっています。

## 3. 家庭・家族のことについて

## 3-1. 世話をしている家族の有無

- 『世話をしている家族が「いる」』と回答した児童生徒は、**小学生の4.8%、中学生の2.6%、高校生の0.8%**となり、**いずれの学校種別でも全国調査結果と比較して割合が低い。**



世話をしている家族が「いる」児童生徒(全国調査比較)

対象	調査協力回答数 (A)	『世話をしている家族が「いる」』と回答した児童生徒		全国調査	『ヤングケアラーに「あてはまる」』と回答した児童生徒		全国調査
		回答数 (B)	割合 (C=B/A)		回答数 (D)	割合 (E=D/A)	
小学生	440	21	4.8%	6.5%	3	0.7%	—
中学生	661	17	2.6%	5.7%	4	0.6%	1.8%
高校生年代	264	2	0.8%	—	1	0.4%	—
合計	1,365	40	2.9%	—	8	0.6%	—
全国調査	2,290	59	2.6%	—	13	0.6%	—

※全国調査は小学6年生、中学2年生、高校2年生を対象とした。

※お世話をしている家族が「いる」と回答した方がヤングケアラーに該当するとは限らない。

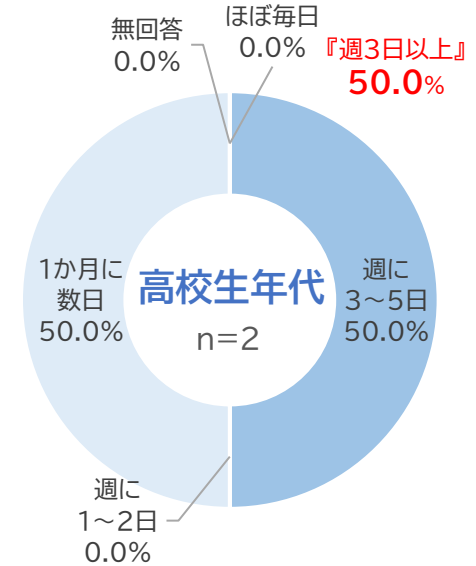
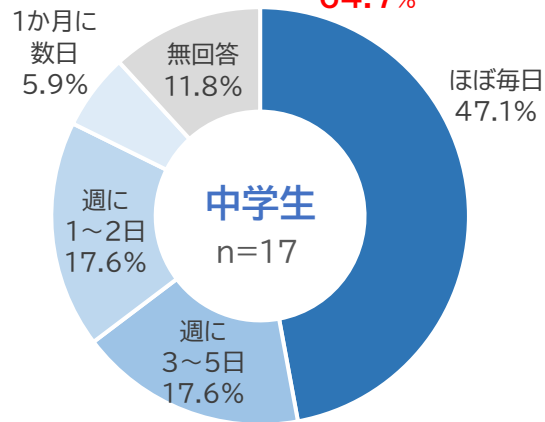
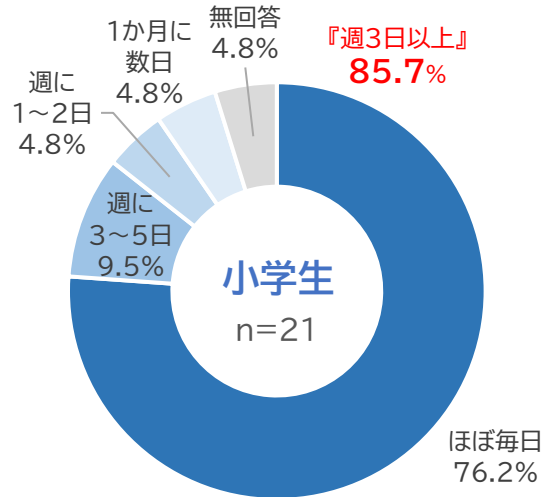


### 3-3.世話をしている頻度と世話で感じるきつさ

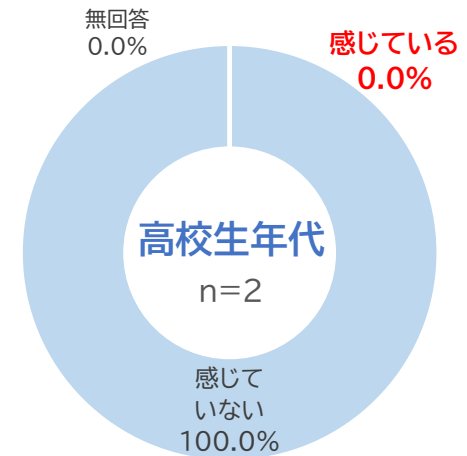
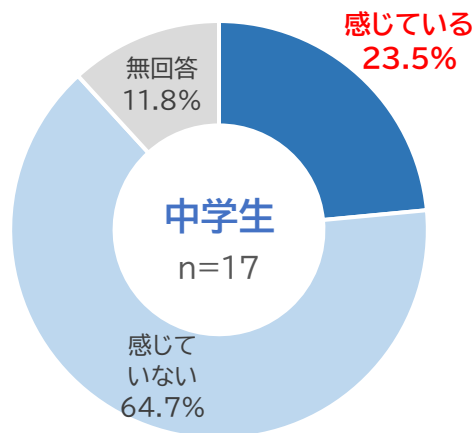
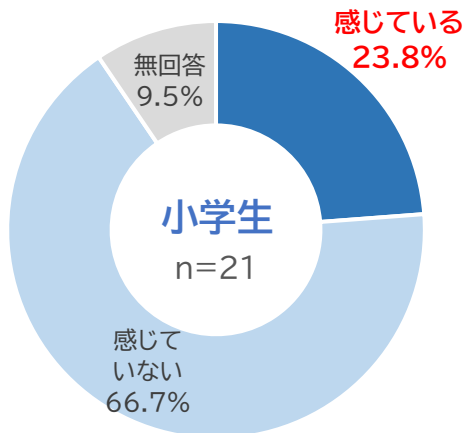
※『世話をしている家族が「いる」』と回答した児童生徒の内数

- 世話をする児童生徒の5～8割が「週3日以上」家族の世話をしており、家族の世話をしている児童生徒の2割以上が、世話のきつさを感じている

世話をしている頻度



世話で感じるきつさ



### 3-4.世話をしているためにやりたいけれどできないこと

※『世話をしている家族が「いる」』と回答した児童生徒の内数

- 世話をしている児童生徒の2割程度は、世話をしているためにやりたいけれどできないことが「ある」と回答している。
- その内容として、「友人と遊ぶことができない」「自分の時間が取れない」に関することが5～18%程度となっている。

	あり 計												特 に ない	無 回 答
		学 校 に 行 き た く て も	居 寝 に 集 中 し た く て も	遅 ど う し て も 学 校 を	勉 宿 題 を す る 時 間 が 取 れ な い	睡 眠 時 間 が 十 分 に 取 れ な い	友 人 と 遊 ぶ こ と が で き な い	宿 泊 学 旅 行 な ど の 参 加 で き な い	部 活 や 習 い 事 が な か っ た	考 え ざ る を 得 な い 、 進 路 を 変 え た	自 分 の 時 間 が 取 れ な い	そ の 他		
小学校(n=21)	19.0	-	-	-	4.8	4.8	14.3	-	4.8	-	4.8	-	66.7	14.3
中学校(n=17)	17.7	-	-	-	-	-	5.9	-	-	-	17.6	-	64.7	17.6
高校生年代(n=2)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-

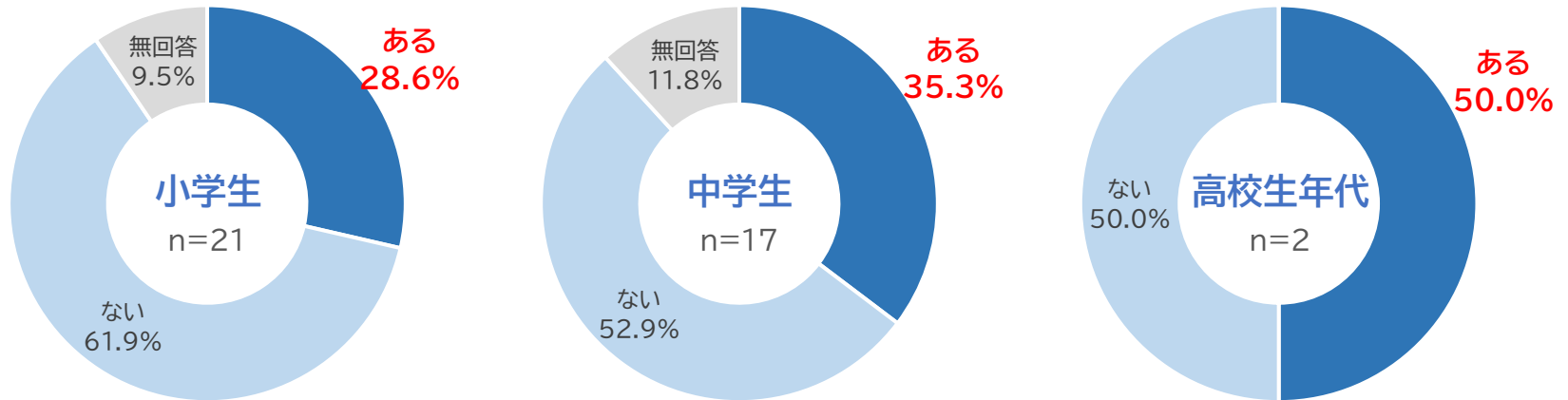
※「あり」計 は全体(100%)-「特にない」「無回答」を除いた比率

### 3-5.世話について相談した経験の有無と相談相手

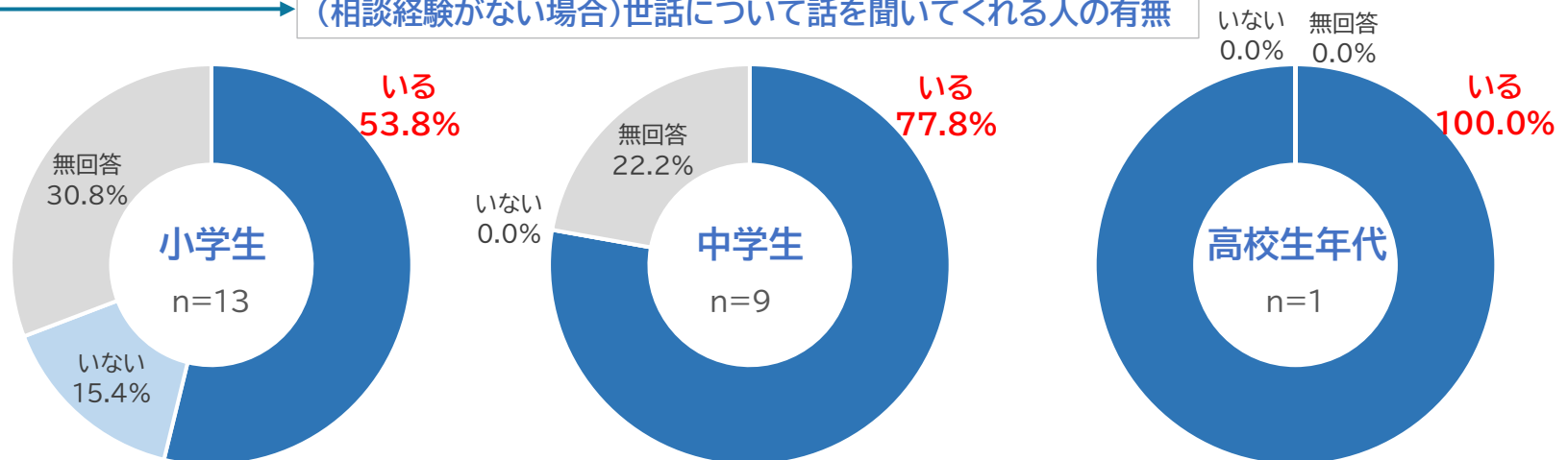
※『世話をしている家族が「いる」』と回答した児童生徒の内数

- 世話について相談経験が「ある」児童生徒は3～5割であり、相談経験が「ない」児童生徒のうち、世話について話を聞いてくれる人が「いる」児童生徒は5割前後である。

世話について相談した経験の有無



(相談経験がない場合)世話について話を聞いてくれる人の有無





### 3-7.学校や周りの大人にしてもらいたいこと

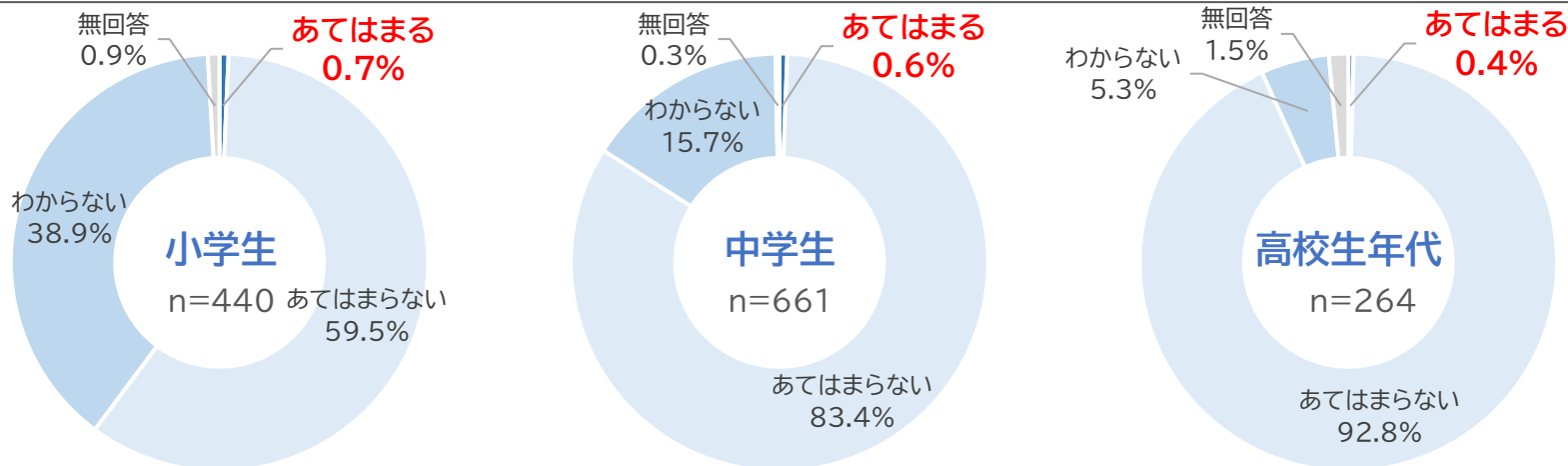
※『世話をしている家族が「いる」』と回答した児童生徒の内数

- 学校や周りの大人にしてもらいたいことについて「特にない」「無回答」を除くと、**小学生では「自由に使える時間がほしい」が17.2%で最も高く**、次いで「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」が9.7%であった。
- 中高生では、「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」が最も高く**、次いで「自由に使える時間がほしい」であった。

	自分の今の状況について話を聞いてほしい	家族のお世話について相談してほしい	家族の病気に気が障がいわ、かかり話	自分が行ったり代わたりがほしくて話の	一部が代行つてお世話してくれ	自由に使える時間がほしい	進路や就職など将来のことに相談してほしい	学校の勉強や受検勉強などのサポート	家庭への経済的なサポート	その他	特にない	わからない	無回答
小学校(n=21)	4.8	9.5	4.8	4.8	4.8	9.5	4.8	9.5	4.8	-	57.1	-	23.8
中学校(n=17)	5.9	-	-	-	-	11.8	5.9	17.6	-	-	64.7	5.9	5.9
高校生年代(n=2)	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	50.0	-	-

## 4. ヤングケアラーにあてはまるか

- 「ヤングケアラーにあてはまる」と回答した児童生徒は、**小学生の0.7%、中学生の0.6%、高校生の0.4%**となっている。
- 全国調査結果と比較して低くなっている。**



ヤングケアラーに「あてはまる」と回答した児童生徒(全国調査比較)

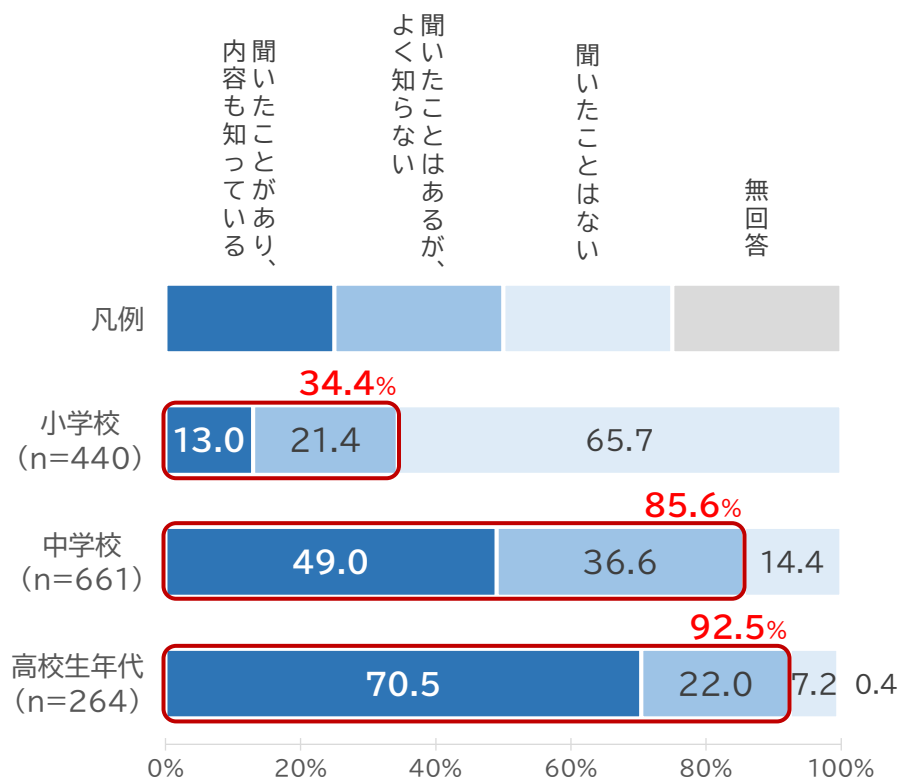
対象	調査協力 回答数 (A)	『ヤングケアラーに 「あてはまる」と 回答した児童生徒		全国調査
		回答数 (D)	割合 (E=D/A)	
小学生	440	3	0.7%	—
中学生	661	4	0.6%	1.8%
高校生年代	264	1	0.4%	—
合計	1,365	8	0.6%	—
全国調査	2,290	13	0.6%	—

※全国調査は小学6年生、中学2年生、高校2年生を対象とした。

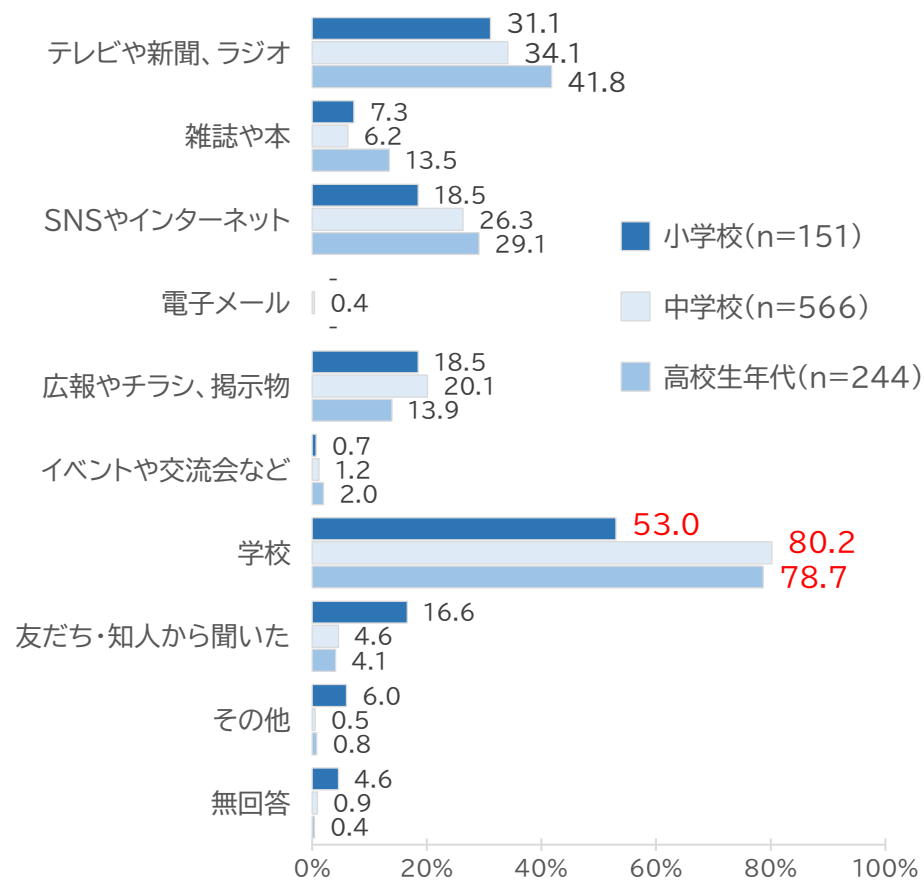
## 5. ヤングケアラーの認知度と認知経路

- 「ヤングケアラー」という言葉について「聞いたことがあり、内容も知っている」「聞いたことはあるが、よく知らない」の合計は、3～9割前後となっており、学年が上がるほど「言葉」だけでなく「内容」の認知度も高まっている。
- 認知経路について、「学校」が最も高く、次いで「テレビや新聞、ラジオ」が4割、「広報やチラシ、掲示物」が2割前後と続く。

認知度



認知経路



## 6.自由回答①

- 「ヤングケアラーを支援していくために必要だと思うことや、大人にしてほしいと思うこと」について、自由回答を整理分析を行った。
- 小学生、中学生では、「アンケートによってヤングケアラーに対する理解が深まった」の割合が高く、高校生年代では「福祉で支援する(介護など)」に関する回答の割合が高い。

小学生(n=440)、中学生(n=661)、高校生(n=264)

順位	分類	対象	構成比	回答内容
1位	アンケートによってヤングケアラーに対する理解が深まった	小学生	13.9%	■ 障害のある家族を支えるのは大変だし、簡単ではないという事がわかった。(小学生) ■ やりたいことができずに、生活の手伝いをしないといけない人がいると知った。人を支えながら、自分のこともしないといけないのは想像できないほど大変だと思った。(高校生年代)
		中学生	8.5%	
		高校生年代	3.4%	
2位	福祉で支援する(介護など)	小学生	3.9%	■ 税金で介護用のロボットなどを取り寄せれば良いと思う。(小学生) ■ 子供をお世話できる施設などに預ける。(中学生) ■ ヘルパーさんの人数を増やして、もっと色々な人が使えるように制度を整える。(高校生年代)
		中学生	7.7%	
		高校生年代	8.3%	
3位	(大人側から)話せる場所と人を作る	小学生	4.3%	■ 周りの人達に、事情を話す。(小学生) ■ 身近に相談できる場所をつくる。(中学生) ■ 第二の家をつくる。(高校生年代)
		中学生	6.7%	
		高校生年代	6.4%	
4位	助け合い・気遣い・思い合い(ボランティア)	小学生	5.0%	■ 見て見ぬふりせず助ける。(小学生) ■ 多い人数でお世話をしたら少しは楽になるかなと思います。(中学生) ■ 周りの人たちがその子の負担を少しでも減らすために動くべきだと思う。(高校生年代)
		中学生	5.3%	
		高校生年代	2.3%	
5位	家庭へ経済的な支援をする(給付金・学費・光熱費など)	小学生	1.4%	■ 介護施設に入れるためのお金を支援する。(小学生) ■ ベビーシッターや介護費などの援助。(中学生) ■ 無償で人員派遣する。(高校生年代)
		中学生	4.7%	
		高校生年代	5.7%	
6位	ヤングケアラーに対する理解を深める(啓発)	小学生	0.2%	■ たくさんの人がヤングケアラーについて知り配慮すること。(中学生) ■ 自分もまだヤングケアラーというものをあまり知らないので学校でもっと教えたり、家庭科や保健の授業などで扱ったりするのを進めていくのが良いと思う。(まずは色々な人に知ってもらうところからだと思う)(高校生年代)
		中学生	2.9%	
		高校生年代	3.0%	
7位	(支援側から)周りが気づいて、声をかける	小学生	1.4%	■ 周りを見て動いて助けて欲しい人がいたらすぐに助けに行く。(小学生) ■ 無理をしていたら助ける。(中学生) ■ 自分自身や周りの人がその状況に気付くことそして対処すること。行政機関が支援すること。(高校生年代)
		中学生	1.5%	
		高校生年代	1.9%	

## 6.自由回答②

順位	分類	対象	構成比	回答内容
8位	助けたい・手伝いたい	小学生	0.9%	■ ヤングケアラーの人が家族に出たら手助けを忘れずにしようと思う。(小学生)
		中学生	1.7%	■ ヤングケアラーの人がいたら相談にのってあげて困ったりしたら助けてあげたいです。(中学生)
		高校生年代	0.8%	■ 親の介護をしている子どもたちが幸せに暮らしていけるように手を差し伸べてあげたいです。(高校生年代)
9位	ヤングケアラーの生活状況や不安を知る(現状把握)	小学生	0.2%	■ こういうアンケートをもっと増やす。(小学生)
		中学生	1.4%	■ もっとアンケートを増やしたり学校ごとに面談みたいなのをする。(中学生)
		高校生年代	1.5%	■ 実態の調査、訪問。(高校生年代)
10位	学校に求めること等	小学生	0.2%	■ 学校に来ていない人の家に担任の先生が相談しに行けばいいです。(小学生)
		中学生	0.5%	■ 学校の先生がそのような人に気づけるように余裕が生まれる人員まで増やすべき。(高校生年代)
		高校生年代	3.4%	■ 定期的な面談でそれぞれの生徒の家庭の事情を把握する。(高校生年代)
11位	大人が責任をもって行う	小学生	1.6%	■ 親が、やる事を確認してテキトーにせず責任を持って家事をする。(小学生)
		中学生	0.0%	■ 親はできる時はやって、できないときだけ子供がすれば、ヤングケアラーにはならないと思う。(小学生)
		高校生年代	0.0%	■ 親が責任を持って育てる。(小学生)
12位	その他	小学生	2.0%	■ 学校生活を過ごしてほしい。(小学生)
		中学生	1.2%	■ ヤングケアラーの心身の負担をなくすためにイベントを開いたり、何かプレゼントをする。(中学生)
		高校生年代	0.8%	■ 法律の整備。(高校生年代)
13位	わからない	小学生	0.7%	■ あまりわかっていない。(小学生)
		中学生	0.0%	■ ヤングケアラーについて何にも知らない。(小学生)
		高校生年代	0.0%	

※児童生徒からの自由回答部分である「回答内容」に記入された意見等について、原則、原文を掲載しております。

## ヤングケアラーに関する相談窓口について①

家庭児童相談員やちあぼーとの職員が家庭や子ども本人の困っていることを確認し、困っている内容に応じて関係機関(学校、スクールソーシャルワーカーなど)と一緒に対応いたします。

また、臼杵市では、ヤングケアラーに関する相談窓口の拡充として、相談申込フォーム、オンライン相談窓口を設置しました。

### ◇ヤングケアラーに関する相談申込フォームについて

#### 臼杵市子ども・子育て総合支援センター「ちあぼーと 家庭児童相談室」

##### ①対面での相談

相談希望がある方は、基本情報(氏名、連絡可能な時間帯等)の入力をお願いします。後日、臼杵市子ども子育て課よりご連絡差し上げます。

【ヤングケアラーに関する相談申込フォーム】⇒<https://logoform.jp/form/iLiF/523906>



##### ②オンラインでの相談(う♡(すき)ラクまどオンライン窓口予約について)

オンライン上(対面)で相談をお受付いたします。

【う♡(すき)ラクまどオンライン窓口】⇒[https://frontweb.fgtriview.jp/?group\\_id=194](https://frontweb.fgtriview.jp/?group_id=194)

電話相談:0972-86-2716(平日 9:00~17:00)



#### 大分県ヤングケアラー専用 電話相談窓口等について

大分県では、大分県内のヤングケアラーの支援のため、下記のとおり相談窓口を開設しています。

電話相談:097-546-1451(24時間・365日対応)

SNS相談窓口(LINE相談):<https://lin.ee/IR4LuAY>

《詳しくはコチラ(URL)》

<https://www.pref.oita.jp/soshiki/12480/surveyoftheyoungcarer-sodann.htm>



## ヤングケアラーに関する相談窓口について②

---

### 児童相談所の相談専用ダイヤルについて

---

児童相談所は、都道府県が設置する機関で、子どもの健やかな成長を願って、ともに考え、問題を解決していく専門の相談機関です。虐待の相談以外にも子どもの福祉に関する様々な相談を受け付けています。

電話番号:0120-189-783(フリーダイヤル)

受付時間:24時間受付(年中無休)

### その他相談先について

---

#### ①「24時間子どもSOSダイヤル」

いじめやその他の子供のSOS全般について、子供や保護者などが夜間・休日を含めて24時間いつでも相談できる、都道府県教育委員会などによって運営されている、全国共通のダイヤルです。

電話番号:0120-0-78310(フリーダイヤル)

受付時間:24時間受付(年中無休)※通話料無料

#### ②「子どもの人権110番」

いじめや虐待など子どもの人権問題に関する専用相談電話です。

電話番号:0120-007-110

受付時間:平日8:30~17:15 ※通話料無料

土・日・祝日・年末年始は休み

臼杵市ヤングケアラー実態調査報告書  
— 概要版 —

令和7年3月  
臼杵市 子ども子育て課